

少年センター **だ** **よ** **り**

守山野洲少年センター
『あすくる守山野洲』

相談は ☎ **583 - 7474** まで

<http://www.usennet.ne.jp/~syonen-c/>

守山野洲少年センター『あすくる守山野洲』ってどんなところ？

守山野洲少年センターは中高生のみなさんの困っていることや悩んでいることに、どうしたらよいかを一緒に考えられる場所です。『あすくる』の愛称で覚えてくださいね。『あすくる』の名称には「明るい **あす** **明日** が **くる** ように」と願いが込められて、つけられました。

さて、みなさんはこんなことで困っていませんか？



『あすくる守山野洲』ではこんな支援を行っています！

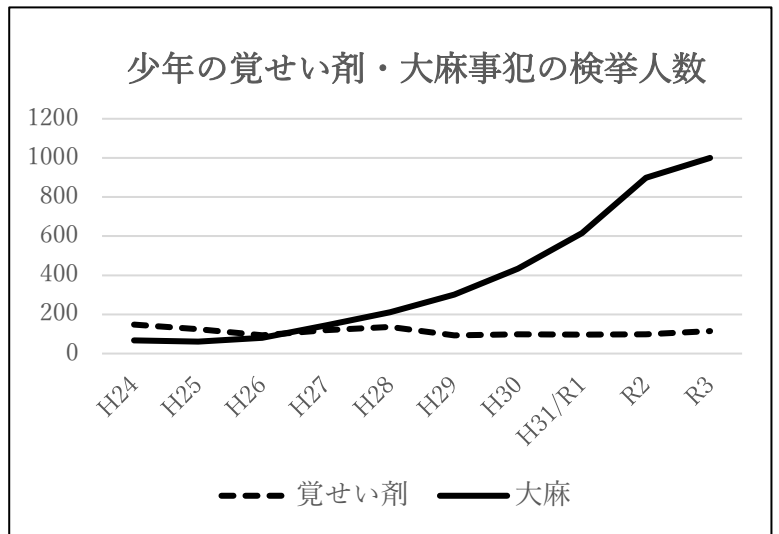
- しんどいなあ、困ったなあ悩んでいたら、あすくる職員に相談してみませんか？
- 一人ひとりの悩みや困りごとに合った支援を考えるのが『あすくる守山野洲』の ^{とくちょう}特徴です。
- 中学生をはじめ高校生など、20歳になるまでの青少年への様々な相談活動、学習や就労（仕事）に関する支援を行っています。
- 相談してみようと思う方は、まずはどんなことに困っているのかを教えてください。一緒に何ができるかを考えていきましょう。保護者や家族の方からの相談にも応じています。
- 学校の先生を通して相談の申込みもできます。『あすくる』ってどんなところなのか、見学だけでも大丈夫です。

電話 077-583-7474 (平日 8:30~17:15)

※相談内容によっては他機関を案内する場合があります。まずはお電話でご相談ください。

若者を中心に大麻による検挙数が急増 「誘われて」「興味本位で」が落とし穴

右の統計グラフは、少年の覚せい剤事犯による検挙数と大麻事犯による検挙数（厚生労働省集計）を示したものです。この統計によると、少年の覚せい剤、大麻事犯検挙数は、平成25年頃まで減少傾向にありました。



しかしながら、大麻事犯による検挙数は、平成26年頃から急激な増加に転じています。その多くを若者がしめており、若年層による乱用拡大があらためて浮き彫りになっています。令和4年の調査では、20歳未満の検挙数が1,000人に達しており、高校生年代の検挙数が急増しています。

大麻事犯により検挙された若者の最初の動機・入り口は、「誘われて・・・」「興味本位で・・・」がその大きな理由です。また、その根底にSNSによる誤った薬物情報の拡散があることも大きな要因の一つと考えられます。

薬物乱用は「犯罪」です。あなたのすべてをうばいます。

「情報」は意図的でなくとも目にする場合があります。今のスマホの普及率（若者の使用頻度）の状況から大麻や危険ドラッグの誤った情報を目にするには十分に考えられます。

深く考えずに知った情報がたとえ誤ったことであったとしても、ちょっとしたきっかけで仲間同士の話題にあがったときに、その情報がさも正しいものであるかのように、あっという間に拡がってしまう危うさがあります。

スマホ全盛のネット社会においては、「薬物乱用」に関して大きな危険をはらんでいると言えます。

大麻(マリファナ)は、タバコより体に悪くないんだよ。
依存(いぞん)だってしないらしい・・・

薬に「やせられる薬」があるらしい・・・

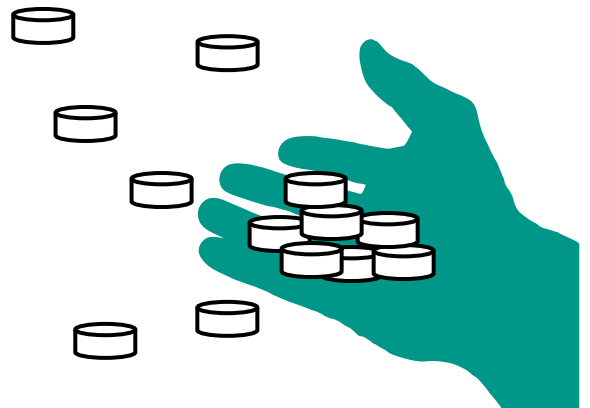
スキっとして、徹夜だって
バリバかんばれるみたいだよ・・・



対人関係のトラブル
家族の問題へ発展 生活への悪影響
健康問題(脳・呼吸器のダメージ)
社会への影響(犯罪・トラブル)

「オーバードーズ」 = 「やくぶつかじょうせつしゆ薬物過剰摂取」

最近、10代の若者を中心に比較的安全に使用できるはずの風邪薬など、一般用医薬品をわざと過剰摂取する（オーバードーズ）行為が社会問題となっています。大麻（マリファナ）などのドラッグの使用が大きな問題となる中、オーバードーズの問題についても、けっして見過ごすことはできません。



覚せい剤や大麻などは、それぞれ法律により、取り扱いが厳格に規制され、所持しているだけでも厳しい罰則が適応されます。しかしながら、オーバードーズに関しては、使用するの是一般向けに市販されている医薬品ということもあり、簡単に手に入れることができます。このような現状から、より危険な状況であると捉えることができます。

若者の大麻使用のきっかけは、興味半分とか、近しい先輩に誘われてなどの理由が多いようですが、オーバードーズに至るきっかけは、「心」の健康に関することが根底にあるように思います。例えば、クラス内で孤立感を感じていたり、誰も自分のことを理解してくれない、家庭の雰囲気良くないなど「つらい・しんどい気持ちをやわらげたい・まぎらわせたい…」という思いから薬の過剰摂取に至ってしまうケースが多いように思われます。

また、そういった状況（オーバードーズをしている自分の姿）をSNSで発信すると、「大丈夫…」とか「自分もしたよ…」などのコメントがよせられ、自分のことが認められたように感じることで、すなわち、一時的にせよ承認欲求が満たされることも問題を根深いものにしていきます（グリ下やト一横に集まる少年少女の姿にも重なります）。

一時的に現実逃避し、救われた気持ちになったとしても、「現実の問題」は「何も解決しない」ことを今一度しっかり認識することが大切です。負のスパイラルに陥り、薬なしでは生活できない状態（依存症）になってしまうかも知れません。



さて、オーバードーズにつながるような「現実の問題」の解決には、時間がかかるかも知れません。

しかし、勇気を出して信頼できる人に相談してみましよう。あるいは、自分のしんどさを話すだけでもいいと思います。

また、友達がやっていることを知ったとしたら、ぜひとも声をかけてほしいと思います。スクールカウンセラーや養護教諭の先生など、信頼できる人のところへ一緒について行ってあげてほしいと思います。

＝ 7月の「青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間」の活動報告 ＝

少年補導委員会の活動

少年補導委員会は街頭補導巡回活動と兼ねて啓発活動をおこないました。コンビニエンスストアに少年補導委員が出向き、啓発品を置かせていただきました。

また、夏休み期間の子どもたちの動向（夜遅くまでの外出、アルコールやタバコの購入）について注視していただけるようお願いしました。

少年センターの活動



少年センターは、公用車で強調月間用の啓発メッセージを流して管内を巡回しました。また、公共施設などに啓発品を置かせていただきました。啓発ティッシュについては、7月8日に開催された守山市・野洲市の中学生広場でも来場者に配布をしました。

◀ 啓発品（メッセージ入りティッシュ・うちわ）

＝ 少年補導委員と中学生との交流会 ＝

今の中学生は、どんなことを思っているのだろうか、どんなことをしているのだろうか、中学生の生の声を聞きたいと思い、少年補導委員会と中学生との交流会を7月～8月に実施しました。



生徒会の役員や部活動の新キャプテンなどと、学校独自のテーマをもとに中学生と少年補導委員が、それぞれの思いや考えを述べ合いました。



結果については11月号で報告します。

参加してくれた各中学校の生徒の皆さん、勉強や部活動の合間をぬって協力していただき、ありがとうございました。また、計画段階からご協力いただきました先生方にお礼申し上げます。

＝ お知らせ ＝

7月より吉身地区の少年補導委員に、村野 真央さんが加わりました。

守山野洲少年センター 『あすくる守山野洲』
〒524-0021 守山市吉身三丁目11番43号 守山市商工会館3階
TEL:077-583-7474・077-570-7557 FAX:077-581-1419
<http://www.usennet.ne.jp/~syonen-c/>

月曜～金曜（土日祝・年末年始は休業）
8時30分～17時15分 秘密厳守・
相談無料
臨床心理士のカウンセリングは 要予約
（水・木・金） まずはお電話ください